

1) 日本感染症学会・日本化学療法学会からの提言：我々の目指す方向性 企画の目的

¹東邦大学 医学部 微生物・感染症学講座

○館田 一博¹

日本感染症学会・日本化学療法学会からの提言の実現を目的として、「抗菌薬開発アクションプラン 2012」、「感染症医・感染症専門医の将来像を描く」を企画させていただいた。今日、感染症を取り巻く環境は多様化・複雑化しており、院内感染、耐性菌の問題がマスコミや一般人を巻き込んだ社会問題として議論されている。一方、新しい抗菌薬開発のスピードは減速し、あれだけ世界標準の抗菌薬を創出してきた日本企業でさえも、一部では感染症領域からの撤退を余儀なくされている状況となっている。このような中で、一昨年、多剤耐性アシネトバクター感染症のアウトブレイクを受けて日本環境感染学会、日本臨床微生物学会を加えた四学会から8項目からなる提言が出された。その中には感染症サーベイランスや感染対策への財政支援の問題に加えて、国を挙げて新しい抗菌薬の開発を促進する仕組みづくりの必要性、さらに感染症診療・対策を担う人材の育成の重要性が盛り込まれている。本シンポジウムは、後2項目の提言を実現するために、学会が、企業が、行政が果たさなければいけない責任とその方向性について議論することを目的とした。もちろん、これらは本学会中に結論が出るという問題ではない。しかし、新しい抗菌薬開発の仕組み作りや感染症専門医の育成や活かし方の問題は本学会において極めて重要であり、また待ったなしの懸案と考えておかなければならない。日本感染症学会・日本化学療法学会の両理事長のご司会のもと、四学会提言を実現するための方策についてご参加の先生方から活発なご意見がいただけるものと期待している。